

いのちいちばん



節分にこめられた願い



わたしたちの生活の中には、昔から続けて行っていることがたくさんあります。

生活の変化が激しい現代、どんどん形は変わっていますが、昔のくらし、日本の文化を伝承していくことの大切さを感じます。

2月3日は節分、節分の次の日が立春で、暦の上では春となります。節分は冬の最後の日の夜です。昔の人は、季節の変わり目は、悪い事や病気が起こると信じ、追い払おうとしました。厄払いのため、人々の諸々の厄を鬼に背負わせて追い出し、すがすがしい気持ちで新しい年や、新春を迎えようとして「節分」の行事が今も続いているのです。

「豆」は、ごろ合わせから、「まめに達者で」という意味があり、自分の年より一つ多く食べるのは、「年を越す」「新しい年も幸せに」という願いからだそうです。鬼はこの世にいないけれど、人の心に住むよくない心や病気の『鬼』を追い出し、みんなと楽しく元気で毎日をおくる『福』を呼びこむような、豆まきにしたいものです。

鬼は、「桃太郎」や「一寸法師」などのおとぎ話などから、こわい鬼のイメージがありますが、各地で伝承されている行事の鬼は、魔物を追い払う良い鬼もいます。

さて、鬼が出てくるお話で、子どもたちがよく読む本には、「泣いた赤おに」「だいくとおにろく」などがあります。

絵本を紹介したいと思います。「おにたのぼうし」(文：あまん きみこ 絵：いわさき ちひろ)です。

あらすじ……節分の夜のことです。どの家からも、豆をまく音がして、鬼の子のおにたは、いくところがありません。角をかくす古い麦わら帽子をかぶって、街を歩いていきました。ようやく小さな橋を渡ったところに、豆のにおいのしない家を見つけました。そこには、女の子とお母さんが住んでいました。



お母さんは病気でした。天井の梁^{はり}の上で、二人の様子を見ていたおにたは、女の子を喜ばせてやりたいと思います……。

私は「おにたのぼうし」を読んでいて、女の子を思いやるおにたの気持ちがいじらしくて心に残りました。

さあ、節分を機に「豆まき」にこめられた人々の願いや、鬼のことなど、お子さんと話し合ったり、本を読み合ったりして、厳しい冬を心身ともに元気に乗り越えましょう。

◇◆◇「水5タイム」開始！◇◆◇

4年生が、水曜日の5時間目(「水5タイム」)に、1学級を3クラスに分けた習熟度別少人数学習を始めました。3年生から始まる習熟度別少人数学習ですが、それに加えて「水5タイム」が始まりました。問題文に一生懸命取り組む子どもたちを見て、たのしく、素晴らしく、本当に感動しています。お子さんの頑張りをほめていただきたいと思います。



励ましの言葉をよろしくお願いします。

★ 学校ホームページを更新しています。ぜひご覧ください。

<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e691543>